2026 年 10 月 21 日
日本船主協会　企画部広報室

海運と船員の重要性を学校教育の場で
～東京都港区の小学校にて出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでいます。

去る 9 月 28 日（月）に、日本船長協会・東京海洋大学海事普及会と協力し、東京都港区にある笄小学校の 4 年生と保護者を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。同校での出前授業は 2021 年より実施しており、今回で 6 回目となります。

出前授業は 3 つのパートに分けて行い、当協会と日本船長協会から海運全般・船・船員の紹介、船員が使用するロープを用いたロープワーク、船長や学生へのインタビューを実施しました。

当協会からの説明では、資源の乏しい島国である日本は船や飛行機を使って外国から多くのものを輸入していることを紹介しました。貿易については、5 年生で習う単元のため、4 年生の児童たちにも分かりやすいよう、身の回りにある事例を挙げて具体的に説明しました。

続いて、日本船長協会の小尾船長が、物を運ぶ船について解説しました。人を運ぶ船にはなじみがあるものの、貨物船については初めて知る児童が多く、多種多様な貨物船について興味を持って聞いていました。外国との貿易では、大量の原油や小麦を飛行機で運ぶことは難しく、船がもっとも適していることに納得した様子でした。また、船員の仕事についても、航海士と機関士の役割や船上での生活スケジュールを紹介しました。目の前で制服を着た船長が説明してくれる中、児童たちは興奮した様子で、船長の仕事や船長になる方法について、たくさんの質問をしていました。





＜海運・船・船員についての授業の様子＞

船と船員についての説明後、小尾船長は船員が仕事で使うロープワークを紹介し、児童たちは海事普及会の学生たちの助けも得ながらエイトノット（8の字結び）とボーラインノット（もやい結び）に挑戦しました。エイトノットは全員がすぐにできるようになりましたが、ボーラインノットは少し難しく、船長と学生たちが一人一人丁寧に教えていきました。



＜ロープワークの様子＞

最後に船長と、船員を目指して学んでいる学生たちに、インタビューを行い、船員を目指した理由や仕事のやりがい、大学で学んでいることを話してもらいました。児童からの「算数は仕事に役に立ちますか？」という質問では、船を進める角度を決めたり、残りの燃料と進める距離を知るためには、算数はとても大事であると説明がありました。また、船で行ってとても良かった場所や、反対に注意しなければならなかった場所についても質問がありました。小尾船長からは、歴史がある街や景観の良い場所や、熱帯地方で虫に刺されないように気を付けないといけない所について実体験に基づいた説明があり、児童たちは興味深そうに聞いていました。



＜インタビューの様子＞

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上